畫像三國志

四編

へ13
4455
4

ヘ13
4455
4

曲亭主人手集

歌川國安画

三國志

両國吉川街

松壽堂販

三国志西傳

只魏蜀の二国を鑑るに。魏は今の河南の地ふして。戦国の時所封府より都と。大梁と號せ。曹操の子曹丕文帝と稱すとよる。都を河南府ふ遷して洛陽とい。呉は今の南京なり。孫権城を建業に構へ。再ひ応天府を自位ふ即く大帝と號る。蜀は今の四川貝徐州の地此四岷沱黒白の四水東西南北ふ分流せる故ふ名とい。玄徳自漢中王と稱り。後帝位ふつき。成都ふ都して國と。後漢とふ河北は今の北京。淮南は今の淮安ふ。精くは末ふ古國をめぐる。此編徐州の呂布没落より。車騎将軍董卓の隠謀

露顕し小沛の城合戦下邳の落城関羽の降参玄徳河北潛幸し復び汝南に戈兵を起し此巻終る。

潰いく五編ゆハ呉の孫権兵権と嗣て江東を據曹操袁紹との會戦官渡に殷石車の計畧烏巣に兵粮を焼倉亭に伏兵を破り皇叔荊州の敗走袁譚冀州と淨ふまでよりて其餘い六編に濃多。排没事敏系くして面のおもてとその文淡前後遲速せーとも見るべし。されども校正精しく考へバ聊も齟齬なし。高覧の緒君子トシく照し合せて鑑察ましのへとの事をその紀。

十返舎一九誌

漢朝臣忠壯斥奸佞諛無
所顧忌立心行事以不味
天理為主暗△

△賜陛下
密詔雖運
籌壽不遂惜哉

車騎將軍董承

形容如垂柳心緒似尖劒諺云艶女
猶毒蛇見人害人婿婦不正者必以
媚起騷乱基英雄猛夫為此輒△

△隕命者多

婿立安雲英

字
正平
才学
高天文地理書
無不通云九流三教
事無不暁云性嗜
酒不能忍言必傷人
見曹操赤裸罵諸臣憍慢于遂隕命
道士
禰衡

関西人板肋虬髯形雄壯左右臂長千
斤初従張宝為
黄巾賊近頃
寓於身臥牛
常慕
良主
千竟従仕
関羽有威
名
臥牛山
周倉

椅子
漢靈
帝時
景師所
造木胎渾金飾之中倚爲鈒花
雲龍餘皆金釘裝釘上陳緋綠
金褥四角各垂紅綠絛結帕

董貴妃

字子龍常山真定人
面赤眼如星虎鬚逆
堅叫声如霹靂千每
持六角
棒擊
人後
宦至
鎮東
將軍

常山の趙雲

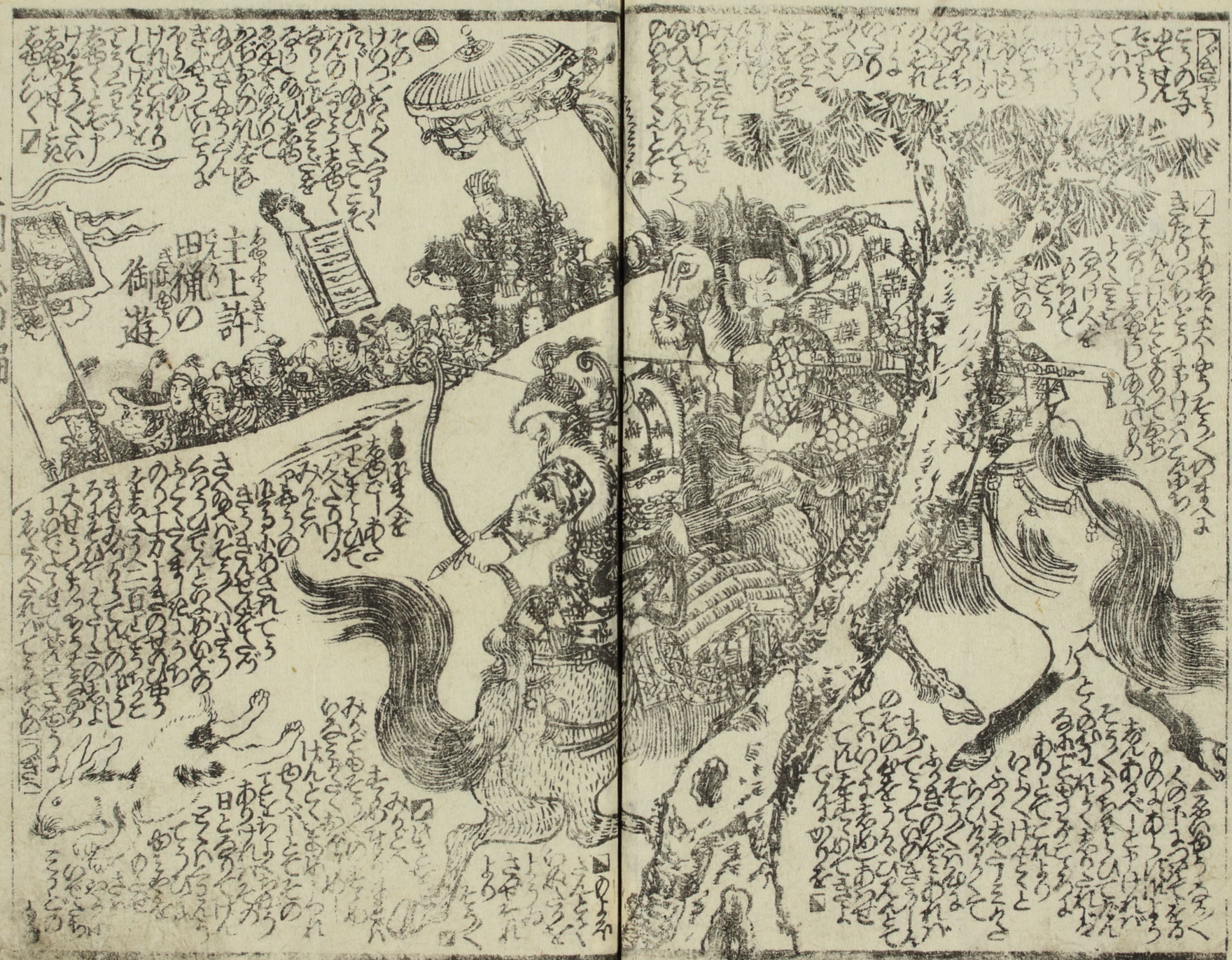
呂布侯成を攻撃せし

侯成魏續宋憲逆謀を企つ

宗憲魏續呂布を
計て俘とも

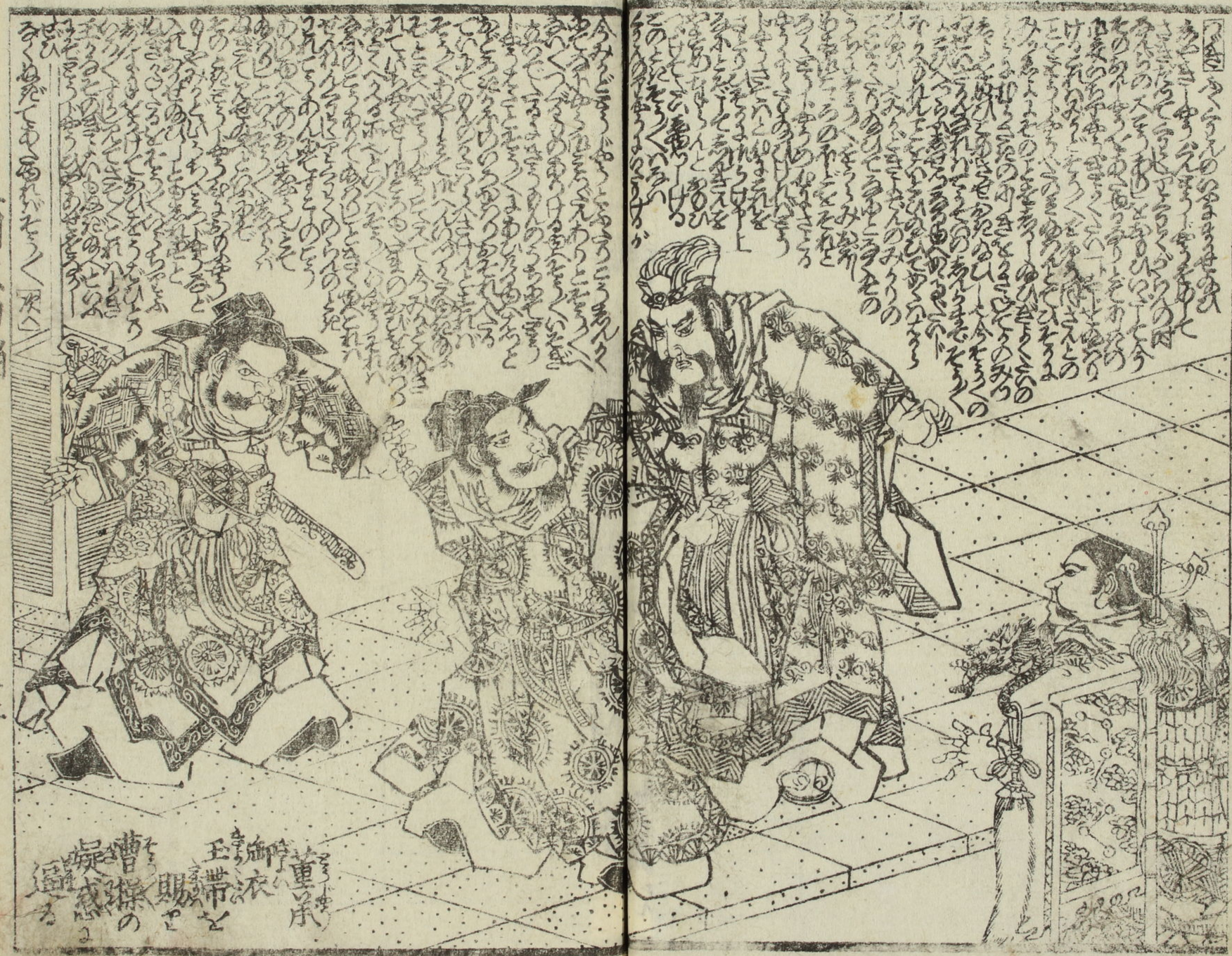
曹操
呂布
袁紹

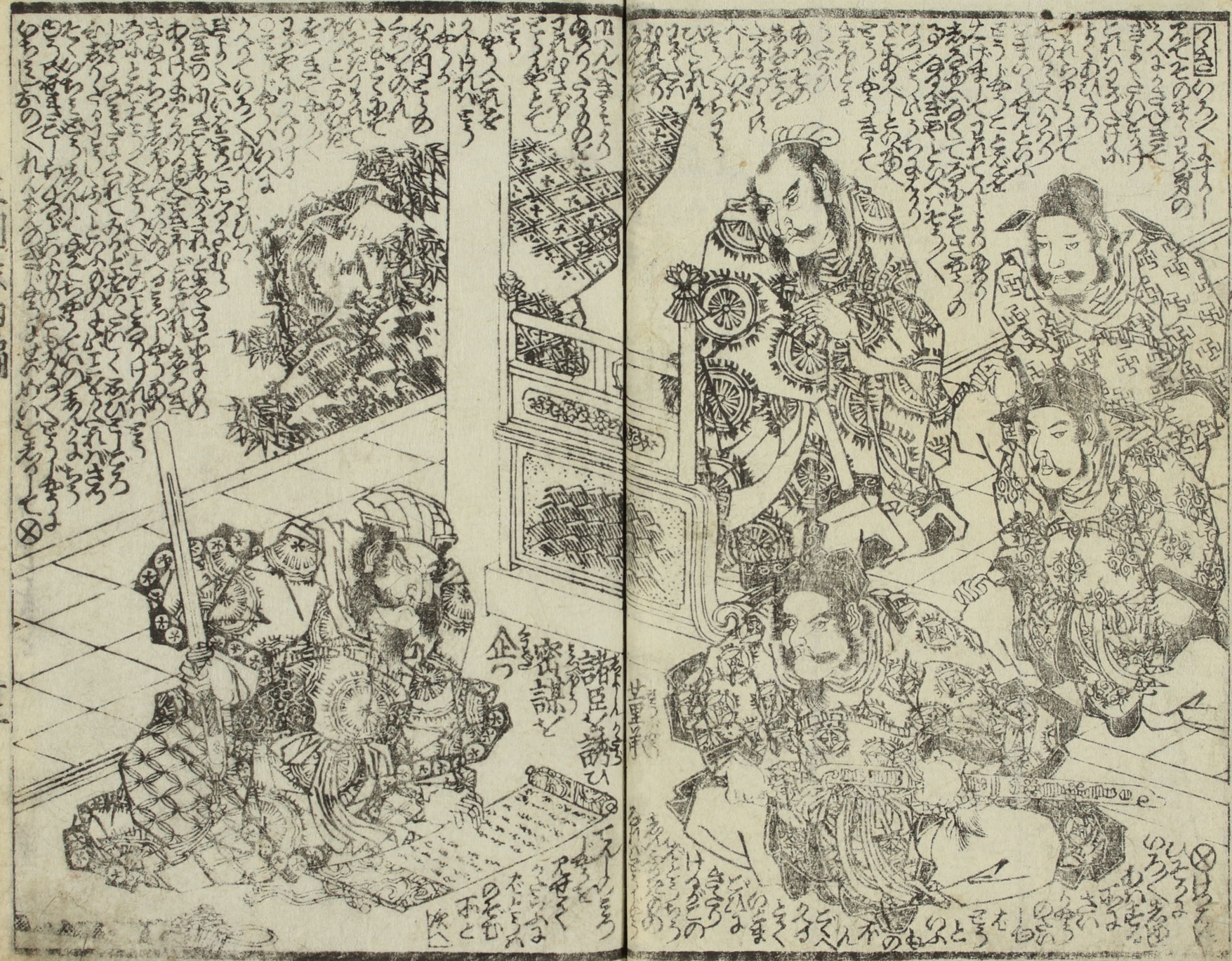
曹操玄徳参内

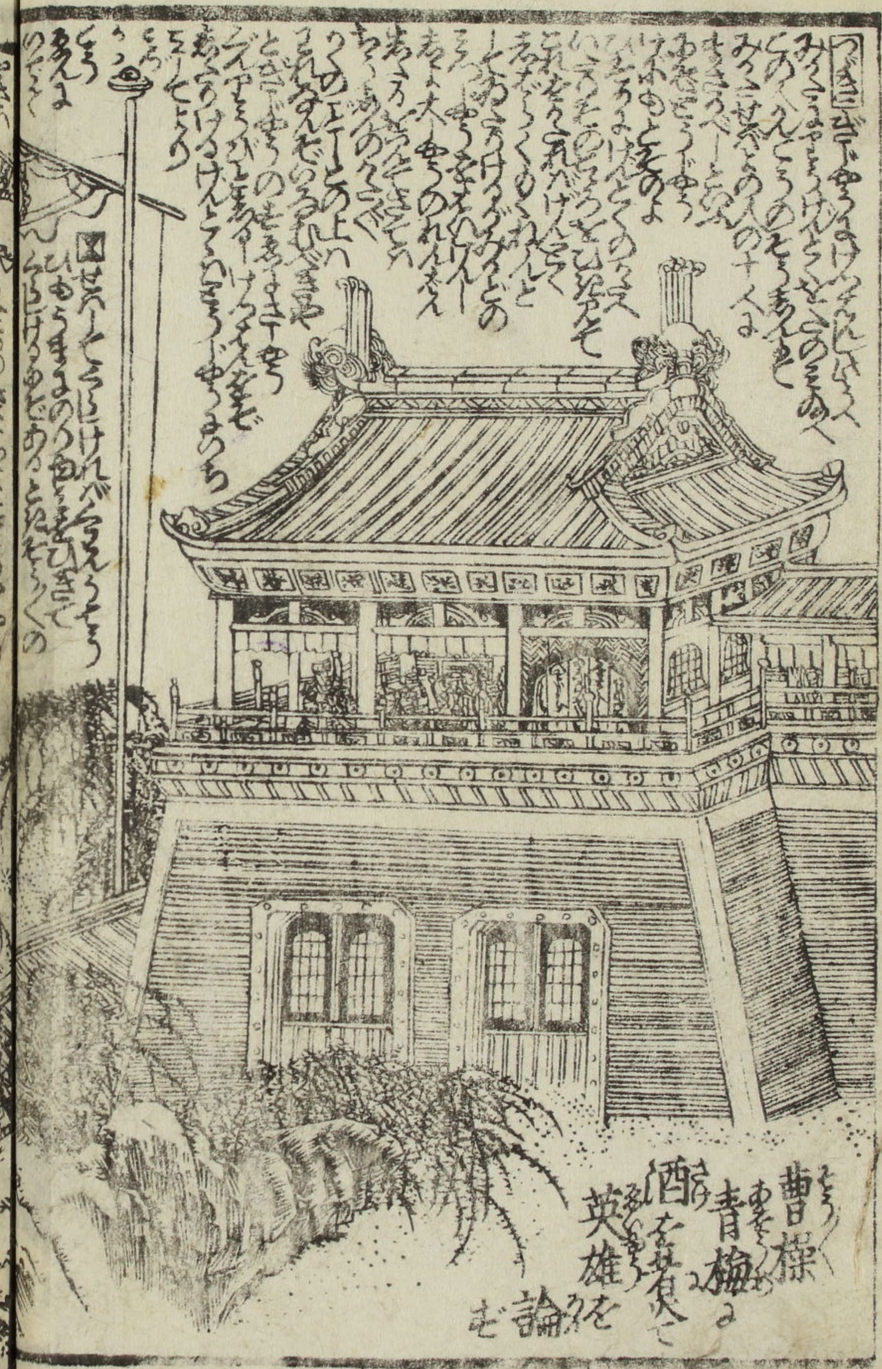

主上許田猟の御遊

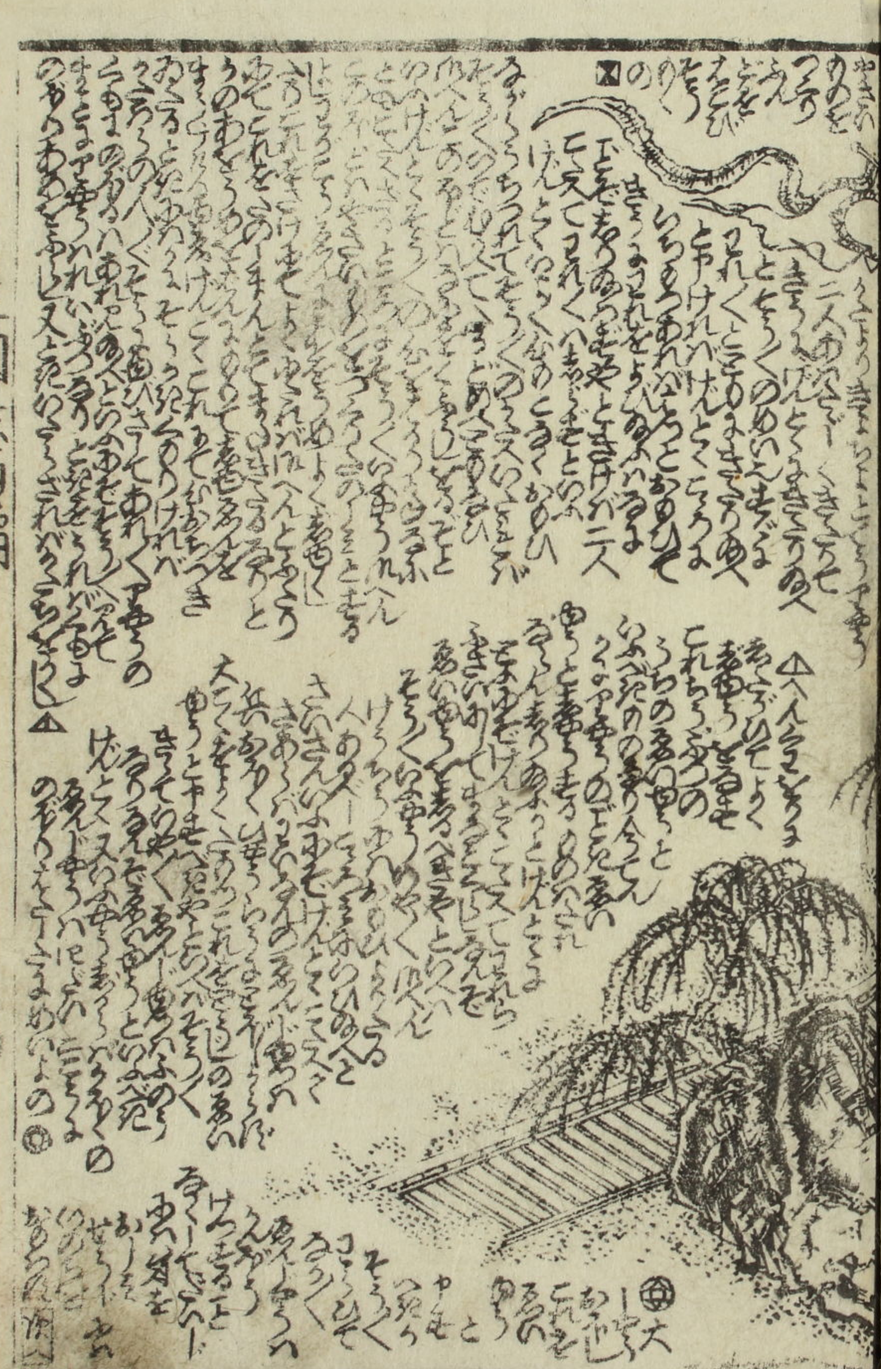
伏皇后

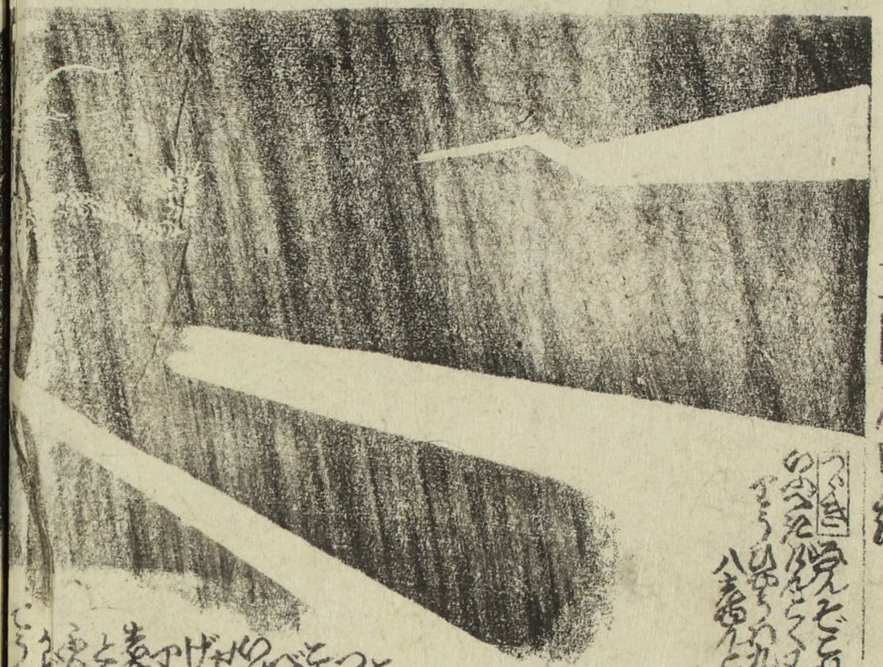
伏完と密謀

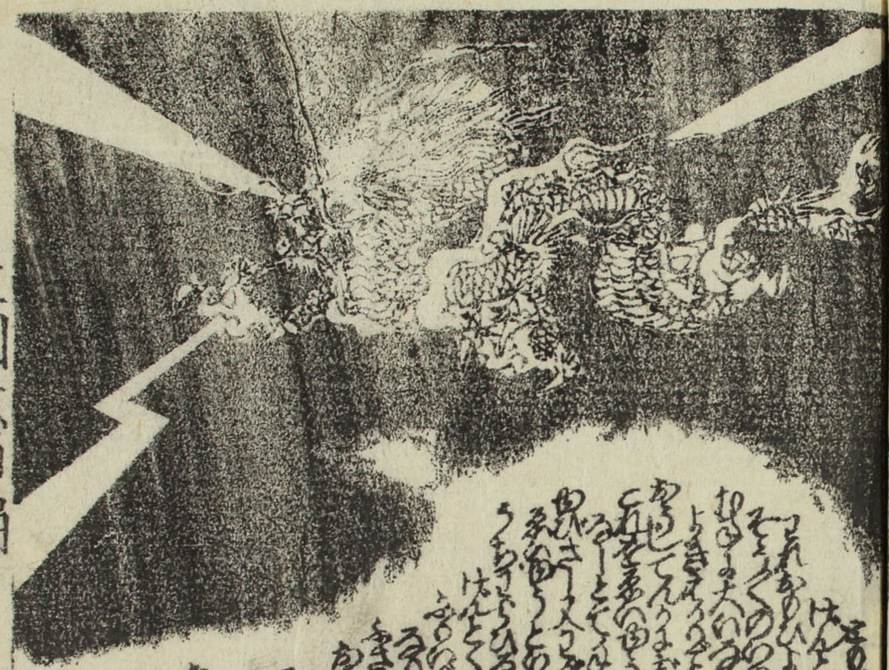

董承
御衣玉帯を賜ふ
曹操の疑惑を逼る




曹操
青梅を
酒を煮て
英雄を
論ず





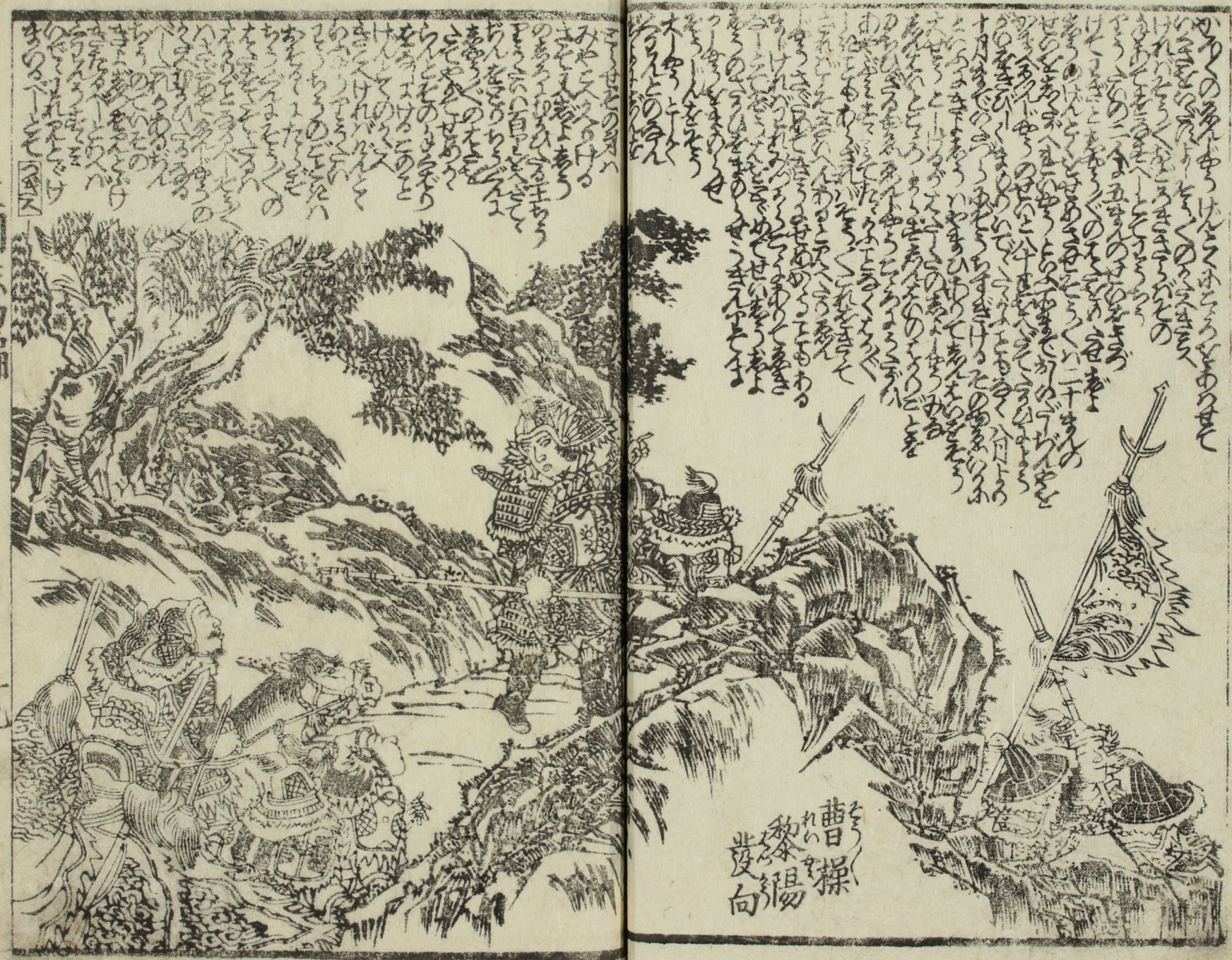


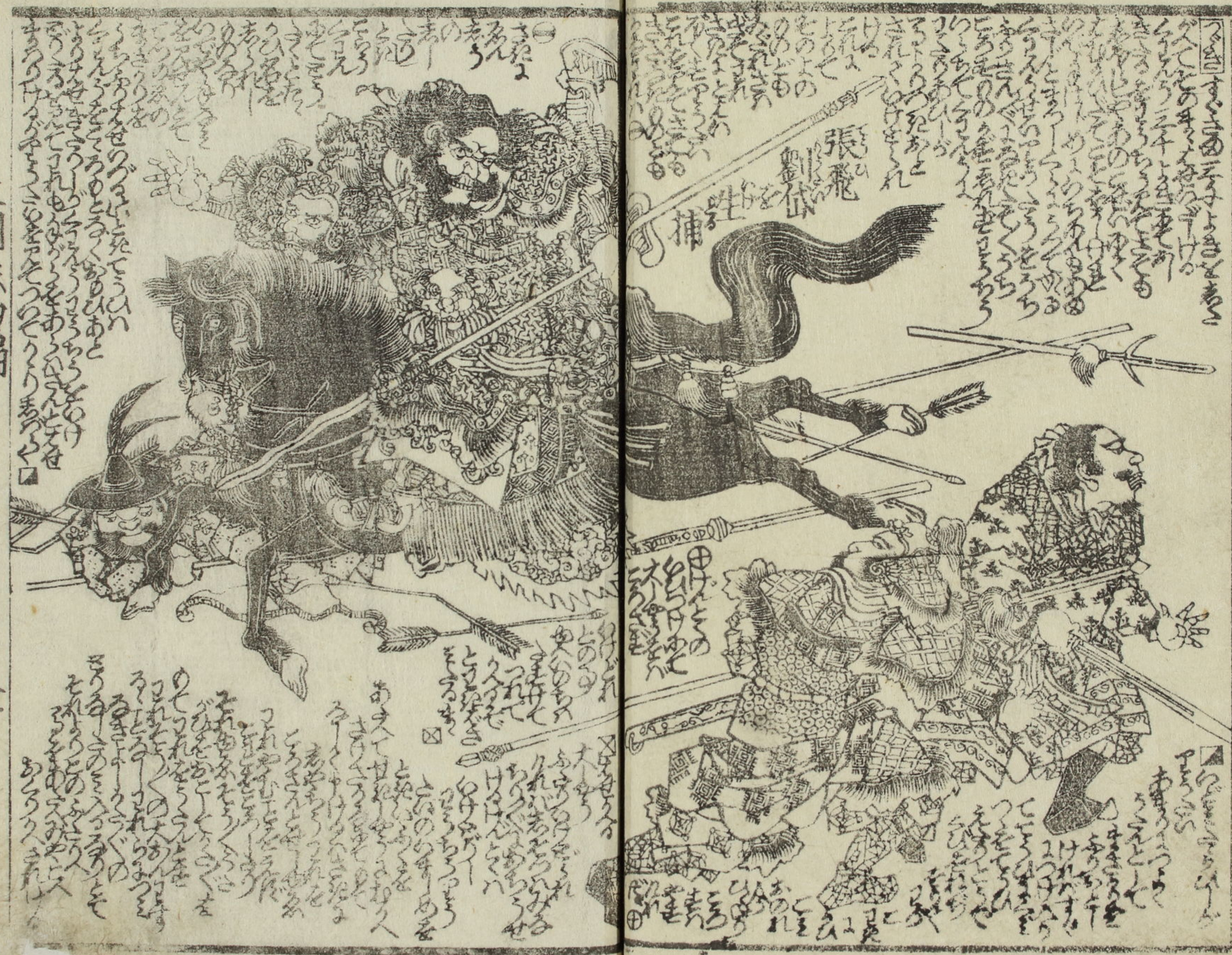
玄德曹操
徐州より走る

関羽紀靈を斬る

車騎將軍董卓玄德を討んと謀る

名誉
大学
評定


曹操
黎陽
渡向

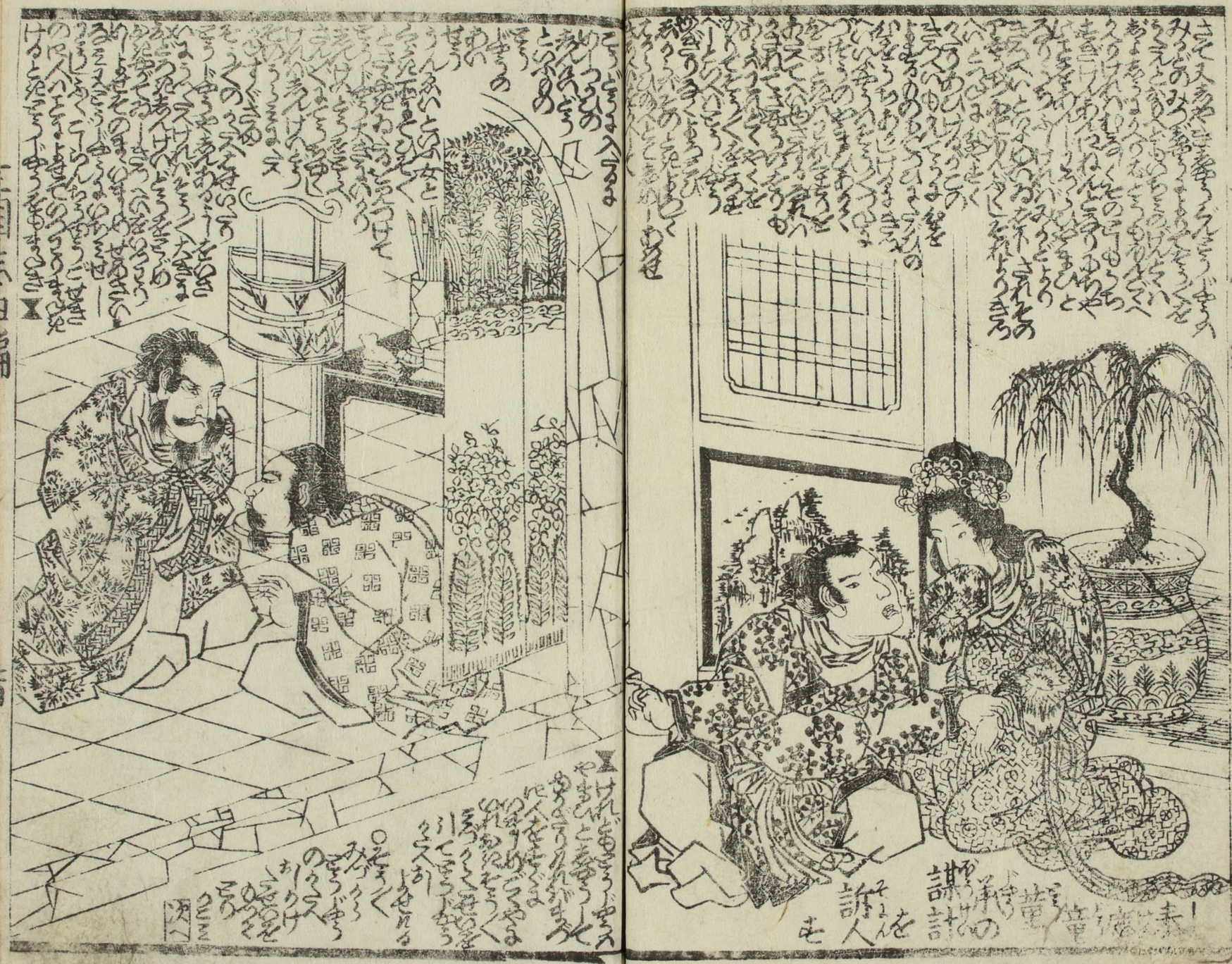

張飛
劉備
捕

十返舎一九編

張飛　楊武將軍

歌川國安画

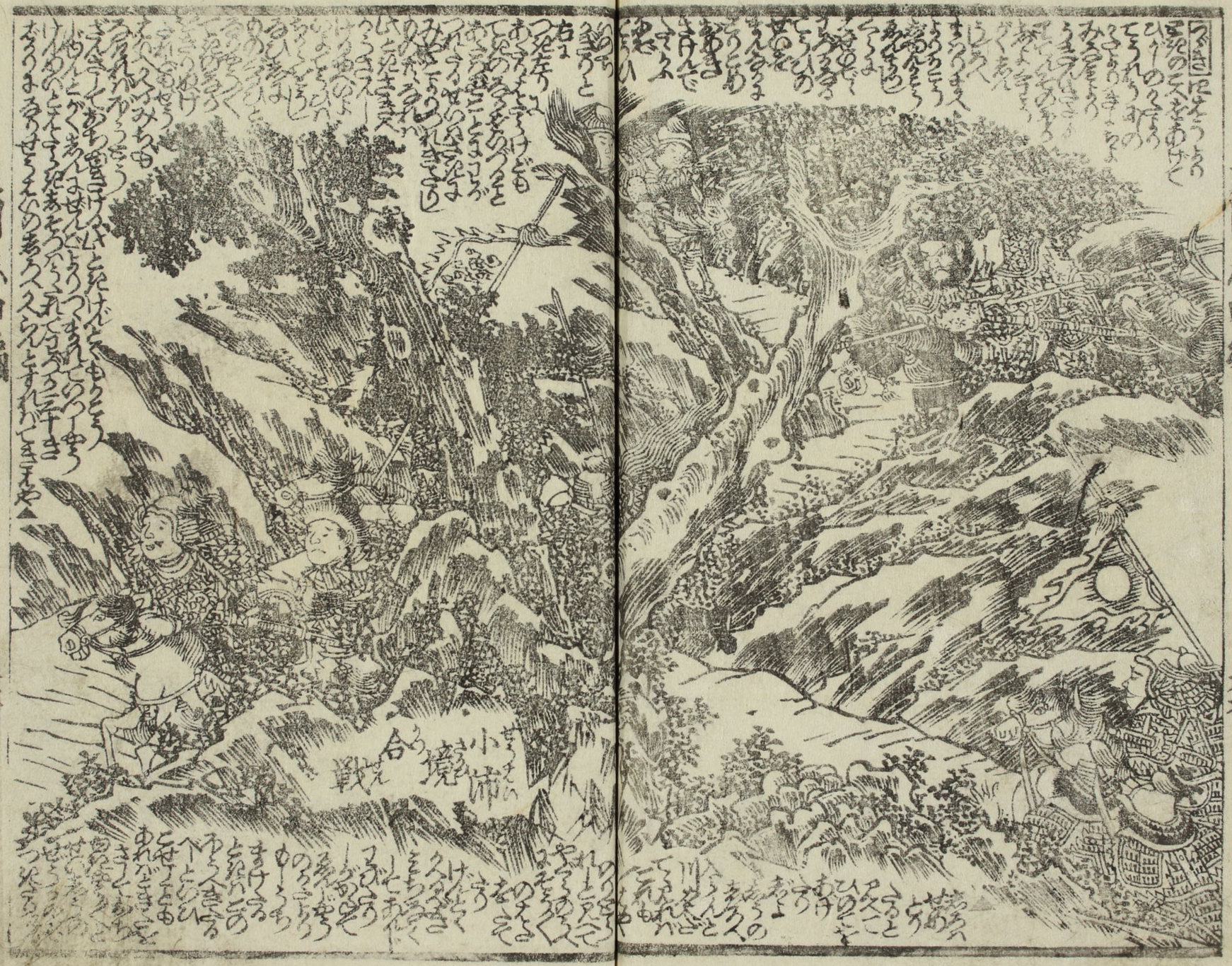
つゞき [illegible]



曹操
董承
防乱方

曹操
董貴妃を殺せ

曹操
徐州
發
命


小境合戦

偽勢
城下の邸入る

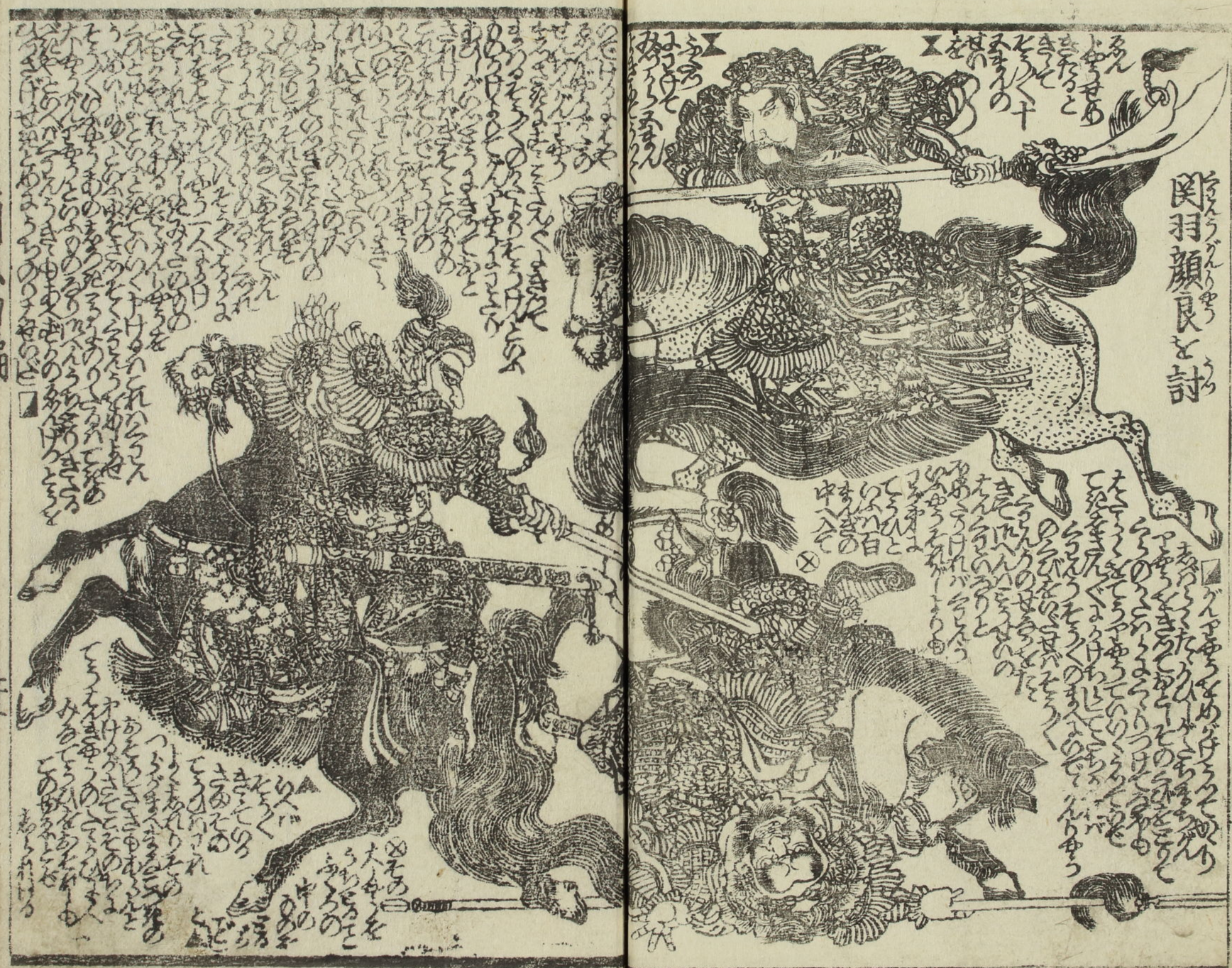
張遼
関羽を
解く

関羽
曹操

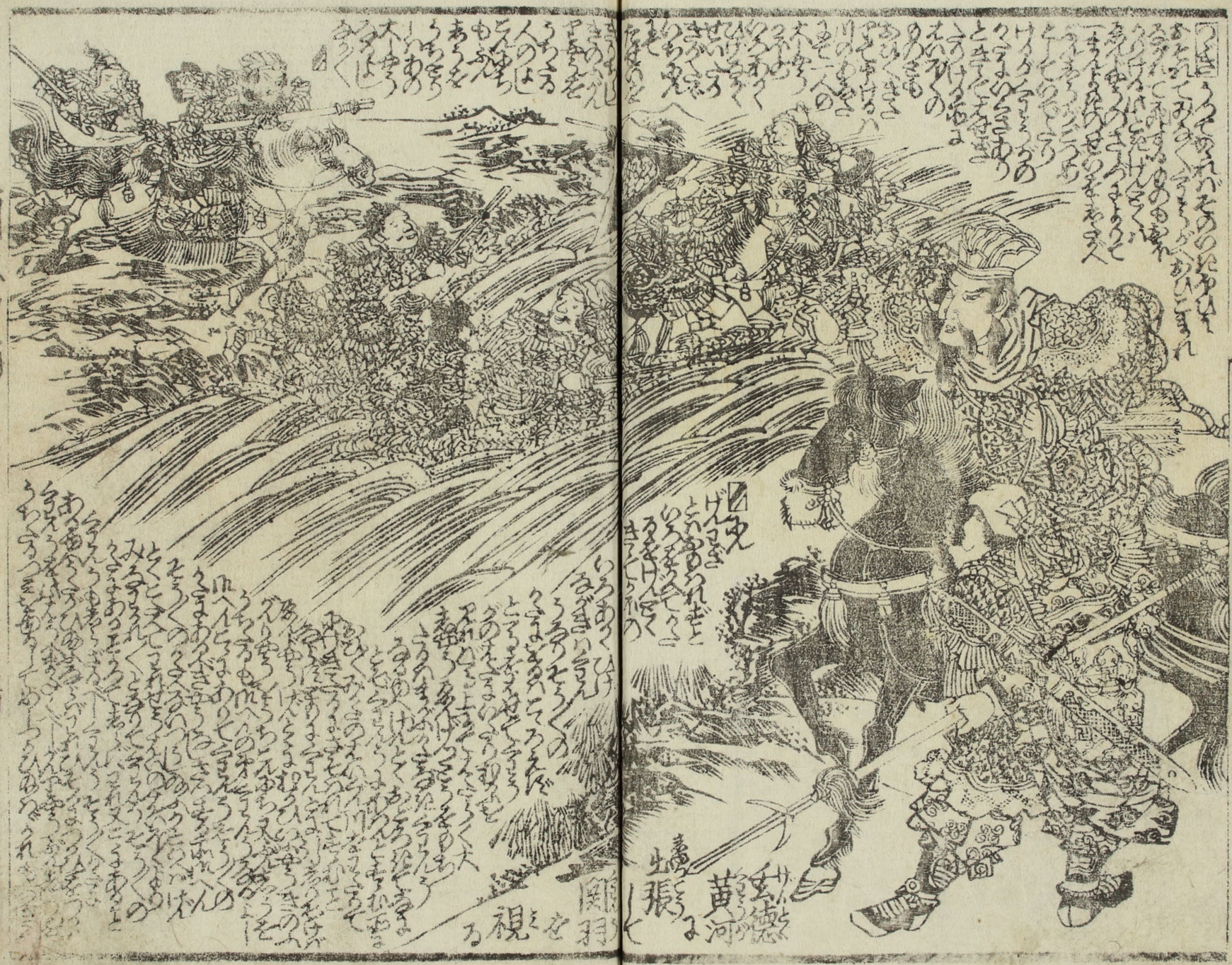
関羽
降参
守備

袁紹大軍を率ひて許都を攻んと謀る

関羽顔良を討



関羽と延津合戦
張文遠と醜斬


関羽
黄河
張飛

甘縄の夫人
河光潛行

下喜
関羽を伐ん と謀る

関羽
孫乾
遣て
汝南に
到る

張飛
関羽は
再會を

趙雲

玄德
汝南
西宮

十返舎一九編

歌川國安画

十三号内
下ノ